

「デンマークの奇跡に学ぼう」 (協同組合通信/日和見論弾) 20050622

「21世紀・日本の自画像 持続型社会へ地域からの挑戦」をテレビで観た。何と、オイルショック時のデンマークのエネルギーと食料事情は、今の我国よりひどい状況だった。エネルギーは国内生産がわずか数%、食料の自給率は30%程度。

石油ショックを契機に、全国民の叡智と努力を傾けた結果、今やエネルギーの国内生産は130%。さらに、食料の自給率は300%になった。これこそ構造改革の精巧な成功モデル。

エネルギーは国内生産で全て賄ってお釣りが出る。30%を輸出にまわし外貨まで稼ぐ。食料も国内産で100%自給でき、その倍の量を輸出している。何も無いのが本当はチャンスであり、その問題解決に敢然と取り組むかにあると解説していた。

首相が髪の毛をそばだて、片手を振り回し「構造改革」連発で得意げだが、所属する党の幹部に反旗を翻されているのでは空回りに近い。ここは冷静に、デンマークモデルをしっかり学んで欲しい。野党も慣れない外遊で、唐突に中東にお節介外交でいい顔しようとしたが、付け焼刃を見透かされ、海千山千のイスラエル高官に簡単にいなされた。高い外遊費を使って自己満足のおしゃべりなど止めて、自国の厳しい現状把握が先決だ。

かの国のエネルギー改革の大成功は風力エネルギーに太陽エネルギー。どちらも我国のポテンシャルはデンマークよりはるかに大きい。人口問題や社会・経済構造の違いはあるが、電力会社の主張する原発が空しく写る。

我国はデンマークに比べて、

- 1) 風の強い長大な海岸線と水産資源に恵まれている
- 2) 急峻な山岳があり世界に誇る豊富な水力と美味しい米がある
- 3) 太陽光も燦燦

足りないものがあるとすれば、国土の環境と天然資源や自然エネルギーの状況の正確な認識と本気の姿勢。我国の食料エネルギー戦略上、デンマークモデルをしっかり学び、調査研究する価値が十二分にある。やがて枯渇するのが明白な石油に依存しすぎる現状から、持続可能で再生産可能な農水産物とエネルギーの大研究と生産に、今こそ国費を積極的に投資して頂きたい。

(気象情報システム株式会社 高津敏)